

方函 脚氣腫滿、短氣、及び心腹痞積、氣血凝滯する者を治す。

檳榔 大黃 厚朴 桂枝 橘皮 木香 蘇葉 甘草 生姜 以上九味。或は大黃を去り、吳茱萸・茯苓を加ふ。南陽は、枳実を以つて木香に代へ脚氣、氣血凝滯して腫をなす者を理す。

口訣 此方は和方の七味檳榔湯の枳実を去り、厚朴・木香・紫蘇を加へたるものなり。脚氣腫滿短氣する者、唐侍中の一方よりは服し易くして効あり。世医檳榔散を用ふれども此方より大に劣れり。

木下優子

九味檳榔湯

【原典】 浅田宗伯の『勿誤藥室方函』とされている。しかし、若干の違いがあるものの、山脇東洋が『外台秘要方』の七味の檳榔湯の応用として九味檳榔湯としたほうが早いという説がある。

外台秘要方

又瘰心頭冷硬結痛下氣檳榔湯方
檳榔 <small>十兩合</small> 生薑 青木香 <small>各三</small> 橘皮
積實 <small>各</small> 甘草 <small>各</small> 大黃 <small>各</small>
右七味切以水六升煮取二升半絞去滓分温三服服別如人行四五里進一服取微利忌生菜熱麩豕肉海藻菘菜等

【方説弁解】 卷之一・心腹胸痛 腹滿

【檳榔湯】 外 療心頭冷硬痛下氣方

檳榔 中二 木香 陳皮 枳実 甘草 大黃 少 生姜

主治 二挙ル 処熱ナク 心下結シ 痛アル者 二用ユ 后世 木香氣ヲ下ス 説此等ノ方ニ 廻リテ云ナルヘシ

傷寒門温胆

山脇東洋著

【檳榔湯】 外台秘要 檳榔 枳実 紫蘇 桂枝 陳皮 大

黃 木香 甘草 生姜 水煎

東洋方函 南門先生蔵方

山脇東洋著・原南陽著

【九味檳榔湯】 治脚氣腫滿微短氣者 (筆者訓説…脚氣腫滿シ

微カニ短氣スル者ヲ治ス)

檳榔 大 大黃 中 厚朴 大 桂枝 甘草 木香 陳皮 紫

蘇 生姜 右九味煎服

【叢桂亭医事小言】 卷之七・蔵方 原南陽

「九味檳榔湯 理脚氣。氣血凝滯。為腫者。」方。

檳榔子 紫蘇 厚朴 枳実 橘皮 桂枝 大黃 木香 生姜

右九味。水煎。照常。(筆者注…以下、恐らく脱字) 氣血凝滯。為腫者。灸足八種。連日不愈者良。其灸法。因病之輕重。將息。又刺委中出血者。亦佳。」

卷之三・脚氣

「脚氣ヲ説キ初テ其治ニ妙ヲ得タリト云シハ東洋先生ナリトソ」

【復坐録】 原南陽口授

「〇九味檳榔湯与唐侍中脚氣方ノ症ヲ異ニスル所ハ唐侍中ノ方ハ肉ノ中ニ水ヲ持也水腫ノ人肌ノ色白キ者也ソレニ引換薄黒キ者ナリ」

「〇九味檳榔湯 理脚氣々血凝滯為腫者

檳榔 蘇葉 厚朴 枳実 橘皮 桂枝 大黃 木香 生

姜 右九味水煎

「〇千金方七味檳榔湯エ東洋先生桂枝蘇葉ヲ加テ九味檳榔湯ト名ク症ハ千金ニ委シ」

【校正方輿覽】 卷之十・脚氣 痿躄

【檳榔湯】 大黃 木香 甘草 生姜 檳榔 枳実 橘皮

桂枝 紫蘇

右九味、以水二合、煮取一合

〇脚氣痞積ヲ兼ル者此方ヲ服シコ、ロヨキモノナリ此ハ原、千金ニ一方トアリテ七味ノ方ナリ山脇東洋桂枝紫蘇ヲ加ヘテ療脚氣ノ薬ト為スナリ

脚氣鈎要

卷上・併病

「千金一方 治脚氣氣血凝滯者」

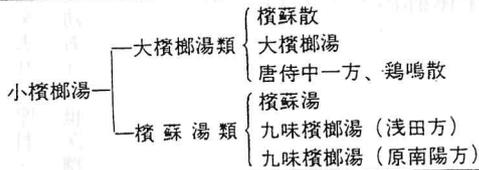
大黃 木香 生姜 檳榔 枳実 橘皮 甘草

右七味。案。此方原千金方。山脇氏加桂枝紫蘇。治脚

氣兼痞積者。尤有驗。」

表 1) 檳榔湯類の組成：

	檳榔子	紫蘇	陳皮	生姜	甘草	香附子	木瓜	吳茱萸	茯苓	桂枝	木香	大黃	枳實	厚朴	朮	桔梗
小檳榔湯	○	○	○	○	○											
大檳榔湯	○	○	○	○	○	○	○									
檳蘇散	○	○	○	○	○	○	○									
唐侍中一方	○	○	○	○	○			○	○			○				○
鷄鳴散	○	○	○	○	○			○	○							○
檳蘇湯	○	○	○	○	○						○	○	○	○		
九味檳榔湯 (原南陽方)	○	○	○	○	○						○	○	○	○		
九味檳榔湯 (浅田方)	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○		



	檳榔	大黃	厚朴	桂枝	橘皮	木香	蘇葉	甘草	生姜	枳實	吳茱萸	茯苓	木瓜	桔梗
浅田九味檳榔湯	○	○	○	○	○	○	○	○	○		△	△		
細野九味檳榔湯	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	△	
南陽九味檳榔湯	○	○	○	○	○	○	○		○	○				
山脇九味檳榔湯	○	○		○	○	○	○	○	○					
千金一方	○	○			○	○		○	○	○				
和方七味檳榔湯	○	○		○	○			○	○	○				
唐侍中一方	○				○		○		○		○		○	
鷄鳴散	○				○		○		○		○		○	○

△は加味される事が多い

【方意】主として気を順らし、血滯を通じ、水毒を去る薬によって構成されている。

檳榔子：主薬であり、気の滞りを破り、水を逐い、痰を去る。瀉下作用があり、便通がないため腹が張り、腸内容が停滞する者に用いる。排便後の後重する者を治す。

駆虫作用、利尿作用、逐水作用がある。

悪心、嘔吐、胃痙攣を起こす作用がある。

(これを防ぐには紫蘇、陳皮、生姜、木香、厚朴、半夏、吳茱萸などを配合する)

橘皮：気を順らし、滯を導き、湿を燥す。健胃作用がある。

木香：諸気を下し、鬱を開く。健胃作用がある。大腸の裏急後重をゆるめる。

蘇葉：諸気を下し、脹満を除く。

吳茱萸：気を下し、中を温め、湿を除く。

厚朴：気を順らし、満を散じ、湿を除く。心下部の膨満を治し、胃腸の痙攣をゆるめ、蠕動を順調にする。

桂枝：血脈を通じる。

茯苓：利尿の効があり、湿を去り水道を通ずる。

『外台秘要方』の七味の檳榔湯

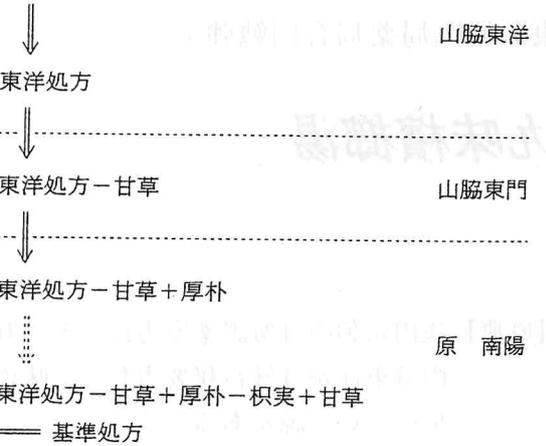


表 2、東洋処方から基準処方への推移

【使用目標】

- ① 心臓の右方拡大
- ② 第2肺動脈音の亢進
- ③ 脚気症に特有の脈状

来ること強く且つ速かに充満したかと思うと、直ちに緊張が去つてゆく。恰も洪脈の状の速かに現れて速かに消えてゆくに似る。換言すると速脈 Pulsus celer (但し心臓疾患のない場合に限る)

且つ数脈である。

- ④ 呼吸促進の感あり。
- ⑤ 腓腸筋握痛
- ⑥ 皮膚知覚異常

其の他、参考として最低血圧低下、股動脈音聴取腱反射異常をも利用したが、就中、③、⑤、⑥に特に注意して応用していた。

水分滯溜傾向の存在を以下の如き臨床的徴候を以て確認することとした。

自覚症状 さむがる、四肢の厥冷、四肢の関節、腰、首等の硬直感

他覚症状

- ① 顔面の Gedunsenheit——即ち、pastös.
- ② 上、下眼瞼及眼下部の浮腫傾向
- ③ 鼻尖の皮膚の緊満して光沢を放つこと
- ④ 皮膚波動 (Hautfluktuation) (仮称)
- ⑤ 腕関節部に於ける水徴候 (Hand-wasserzeichen) (仮称)

(小指球を腕関節の方向に圧迫する際に、水分滯溜傾向のある人では腕関節屈側中心部に限局性半球状の膨隆を生ずる。)

気剤を考慮すべき訴え

自覚的または他覚的な下肢の痛み (腓腹筋の把握痛を含む)

水毒徴候

軽度の瘀血

不眠傾向

動悸・息切れ

九味檳榔湯と九味檳榔湯去大黄加呉茱萸茯苓の使い分けについて

比較的体力があり、便秘を伴うタイプ

→大黄の入っている処方考慮する

冷え症で胃腸が弱いタイプ

→呉茱萸・茯苓を加えた処方考慮する

1) 自覚症状

全身倦怠感、或は下肢の倦怠感、易疲労、動悸、息切れ、筋肉の凝り、腓腸筋の凝り・痙攣、顔や手足の浮腫或は浮腫傾向、便秘又は便秘傾向、水毒証で朝目覚めが悪い、尿利は不利或は不利傾向。

2) 他覚症状

心濁音界の右方拡大、第2肺動脈音亢進、特徴的な脈状 (Pulsus celer)、最低血圧低下、腓腸筋握痛、皮膚知覚異常、肩背の凝り、腱反射異常。

3) 適応症診断のポイント

- ① 特有の脈状に注意。脈で本方の適応症と見当が付くことが多い。

脈は来ること強く、速やかに充満したかと思うと、直ちに緊張が去ってゆく。洪脈が速やかに現れて速やかに消えてゆく如き、所謂速脈 (Pulsus celer)。

- ② 心臓に関する症状を確かめる。

第2肺動脈音の亢進、心濁音界の右方拡大、階段を上がる時の息切れ、動悸。

- ③ 筋肉のこわばり、凝り、痛み、疲れ易さなどを認め易い。

- ④ 所謂水毒体質で浮腫又は浮腫傾向を認める。

起床時浮腫 (顔や手)、午後から夕方の浮腫 (下肢)、起床時の倦怠感。起床時の身体のこわばり、etc.

- ⑤ 便秘傾向、尿不利 (尿不利は自覚しないこともある)。

【適応疾患】脚気及び脚気様症状を呈する種々の疾患

脚気は夏期に多い疾患として知られていたが、近年では季節に関係なく発生している。

表2：脚気様主訴を持つ患者の分類（脚気を除く）

〔日常診療のためのビタミン（浦田卓 他：文光堂）P276より引用〕

健康者	1) 単なる過労 2) 不眠によるもの	内 分 泌 代 謝 疾 患	1) バセドウ病 2) 粘液水腫 3) 糖尿病および低血糖症 4) 更年期症候群 5) 副腎皮質不全 6) アリポフラビノーシス、 ペラグラ、悪性貧血など
	呼吸器疾患 1) 肺結核、胸膜炎などの初期 2) 感冒 3) 気管支拡張症、肺気腫 4) 肺性心 5) 初期の肺がん		腎疾患 1) 慢性腎炎
循環器	1) 高血圧症、低血圧症 2) 心臓弁膜症 3) 神経循環無力症	そ の 他	1) 自律神経失調症 2) 神経衰弱、ノイローゼ 3) うつ病 4) 貧血 5) 梅毒 6) 亜急性心内膜炎 7) 寄生虫病（蛔虫症、鉤虫症）
消化器疾患	1) 肝硬変、慢性肝炎 2) 慢性胆嚢炎、胆石症、胆嚢症 3) 慢性胃炎 4) 慢性痔瘻 5) 胃がん		

表3：九味檳榔湯投与疾患

（日本東洋医学会誌5巻・2号）

脚 神 經 症	気 43 症 31	肥 肝 痔 貧 胆 副 テ 糖 食 氣 手 副 盲 脊 パ 帯 便	腫 臟 疾 血 石 腎 ン 尿 欲 管 術 鼻 腸 髓 セ 状 秘	症 4 病 3 疾 4 血 4 症 7 全 2 ン 2 病 2 振 2 息 1 害 1 炎 1 炎 1 膜 5 病 3 ス 1 症 1
心臓神経症	27			
消化器神経症	3			
神経衰弱	1			
胃・腸炎	14			
高血圧症	15			
肺結核 肋膜炎	15			
疲労	7			
初老期・更年期障害	4			
虚弱体質	3			
慢性腎炎	7			
アデノイド	3			
妊娠	4			
リウマチ	7			
水分貯留体質	5			
産後障害	1			

原 著

九味檳榔湯加呉茱萸・茯苓の臨床
——脚気症様状群の治療——

京都翠心会

細野史郎 (SIRŌ HOSONO)

坂口弘 (HIROSI SAKAGUTI)

内炭精一 (SEITI UTIZUMI)

1. 緒言
2. 九味檳榔湯加呉茱萸、茯苓の薬方について
3. 本方と体質との関係
4. 本方の応用目標及び鑑別
5. 考 察

漢方研究

》 解説と症例 《

九味檳榔湯に就いて

中田敬吾*

脚気腫脹短気
郷庭家口訣
陳皮九味換檳湯
紫萸
生換檳榔
姜
右水煎
大黃
厚朴
桂枝